



人工巣塔への集まりと、生まれたヒナを見守るコウノトリ。地元で活動する波崎愛鳥会のメンバーが、コウノトリの親子を見守り続けている



自然豊かな神栖市はコウノトリのエサも豊富

生活環境部環境課の伊東大輔課長補佐は、今後の取り組みについて次のように語ります。「足環装着は市が責任を持って続けていきます。また、今年

足環をつけるのは個体識別をするためです。左右の足環の色や個体番号を見れば、生年月日、性別、生まれた場所などが分かるようになっており、兵庫県立コウノトリの郷公園

で全国のデータが管理されています。いわばコウノトリの戸籍のようなもので、親子関係の「家系図」もたどれるようになっていきます。

浅い池をつくり、見守りカメラをつけました。コウノトリだけでなく、サギやカモも来ています」

### 豊富なエサで順調に育つ

地上に設置されたテントでは、手早く血液や羽毛の検体採取、体温測定、大きさの計測、足環装着などの作業が行なわれていきます。すべての作業は約40分で終了。再び高所作業車に乗ってヒナを巣に戻すと、心配そうに空を旋回していた親鳥がすぐに飛んできました。

今回の調べたヒナの体重は、4・2キロと3・9キロ。その数値に布野さんの顔がほころびます。「大きいですね。とても健康で順調に育っています。神栖市には、おいしくて良いエサがたくさんあるのでしょね」

布野さんは研究者として、健全なコウノトリが増えて、より強い個体群が形成されるよう調査研究に取り組んでいます。「数が増えても絶滅危惧種であることに変わりはありません。今後、全国の繁殖地点でどれくらい自然再生の取り組みをしていくかが、個体数の増減に影響してくるでしょう。ここからが正念場です」

### 会えることがうれしい!!

ヒナに与えるのだそう。巣には食べ残しがほとんどなく、驚くほどきれいな状態が保たれているといいます。

最後に、柳堀さんにとってコウノトリはどういう存在なのか聞いてみました。「会えるとうれしい存在ですね。コウノトリは幸せを運ぶといわれていますが、姿を見ると誰もが本当に楽しい気分になるんです。私は、利根川沿いの葦原の上空を数羽で飛んでいる風景が好きです」



②



③



④

①手早く体温測定や体長の計測などが行なわれる ②巣の周辺にはエサが豊富な田園が広がる ③落下防止のため網でヒナを押さえる ④慎重に高所作業車からヒナをおろす ⑤驚いてパニックにならないよう目隠しをされたヒナ ⑥足環の装着

このプロジェクトは、波崎愛鳥会、日本野鳥の会茨城県、山階鳥類研究所、日本生態系協会の呼びかけで始まったもので、今年までに3基が設置されています。



柳堀さん

「巣塔を建てれば、すぐに巣づくりをしてくれるだろうと期待していたのですが、なかなかそうもいかなかった。最初に建てた巣塔で、去年初めてヒナが孵りました。気長に待つことが大切なようです」

### ヒナの検査と足環装着

コウノトリは冬に巣づくりをし、春に卵を産み、夫婦が交代で温めて4月から5月ごろにヒナが孵ります。そのヒナに足環をつけ、健康診断をする作業が5月21日に矢田部地区、6月5日に太田地区で行なわれまし

た。5月は、わたる(小山市生まれ4歳オス・J0329)とのぞみ(同3歳メス・J0342)のペアから生まれた4羽(J0731・J0732・J0733・J0734)、6月はたいよう(野田市生まれ4歳オス・J0310)とバレちゃん(養父市生まれ6歳メス・J0214)のペアから生まれた2羽(J0768・J0769)です。今回は、6月5日の様子をご紹介します。



野田市と行方市の職員や、兵庫県立コウノトリの郷公園の主任研究員をはじめ、埼玉県こども動物自然公園、上野動物園、多摩動物公園、井の頭自然文化園などの獣医師や飼育員など20人近くが参加。うち数人が高所作業車のバケットに乗り込み、巣から2羽のヒナを地上におろします。ヒナたちは、驚いてパニックにならないよう目隠しをされ、体温上



伊東さん

### コウノトリを観察するときの注意点

コウノトリは警戒心の強い鳥です。観察するときは150メートル以上離れ、温かく見守りましょう。



▲コウノトリ個体検索(兵庫県立コウノトリの郷公園ホームページ)